

宍道湖における湖岸堤整備

- 斐伊川水系河川整備計画【国管理区間】（平成22年9月策定）における宍道湖の湖岸堤整備は、戦後最大被害をもたらした昭和47年7月洪水が再び発生した場合においても、家屋浸水を防止することを目標としています。
- また、宍道湖の湖岸堤整備は、令和3年3月公表の「斐伊川水系流域治水プロジェクト」にも位置づけられており、引き続き関係機関と連携しながら事業を推進することとしています。

宍道湖湖岸堤整備の考え方

湖岸堤高H.P.+3.30m未滿かつ背後地盤高H.W.L.(H.P.+2.50m)未滿で背後地に家屋等がある箇所を整備します。

※H.P.+3.30m

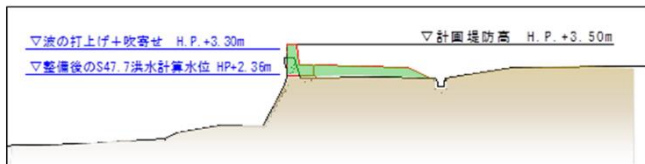
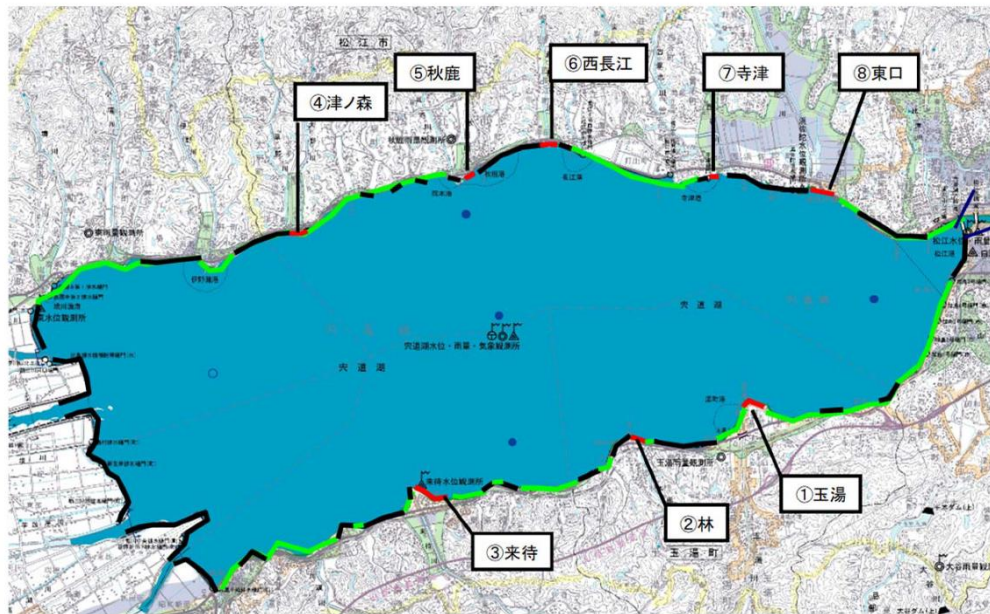
S47.7計算水位H.P.+2.36mに対し、松江水位観測所のはん濫注意水位H.P.+1.2m以上により観測された最大風速10.5m/s (H18.7)で推計される最大の打上高



宍道湖湖岸堤整備箇所

湖岸堤整備箇所

No	地先名	箇所名	延長
①	島根県松江市玉湯町地先	玉湯箇所	570m
②	島根県松江市玉湯町地先	林箇所	230m
③	島根県松江市宍道町地先	来待箇所	840m
④	島根県松江市大野町地先	津ノ森箇所	230m
⑤	島根県松江市岡本町地先	秋鹿箇所	260m
⑥	島根県松江市西長江町地先	西長江箇所	300m
⑦	島根県松江市西浜佐陀町地先	寺津箇所	30m
⑧	島根県松江市西浜佐陀町地先	東口箇所	220m



整備イメージ図

凡例	
—	湖岸堤高H.P.+3.30mかつ背後地盤高H.W.L.(H.P.+2.50m)未滿で背後地に家屋等がある箇所
—	湖岸堤高(及び背後地盤高)がH.P.+3.50m未滿で上記以外の箇所
—	湖岸堤高がH.P.+3.50m以上若しくは山付け区間(堤防不要区間)

※ 詳細な施工延長及び堤防形状については、背後地の土地利用状況、湖岸の植生等の生物環境、景観、被害の状況、地域住民等の意見も踏まえ精査します。
 ※ 支川の処理については、支川管理者と別途調整します。